

春秋五覇、戦国の七雄が争った戦乱の時代

異民族の侵入を機に
長い戦乱の時代へ突入

前770年、異民族が周の都、鎬京に侵入、周は都を東の洛邑に遷した(東周)。遷都以降、周王の権威は衰え、自立した諸侯が各地で覇権争いを展開する、戦乱の時代となる。

春秋時代(東周の前期)には、200あまりの諸侯があったが、春秋の五覇という有力諸侯に併合されていく。彼らは覇者とされ、周王を尊び、夷狄(異民族)を退ける尊王攘夷を名目として勢力拡大に努めた。やがて、諸侯の下の大夫層が実力で政権を奪う下剋上が起こるようになり、前403年、大國晋が3國に分裂した。諸侯が王と称して領土拡大を図るこれ以降の時代を戦国時代という。諸侯間の争いの結果、戦国の七雄とよばれる7大國が分立し、それぞれ富國強兵策をとった。

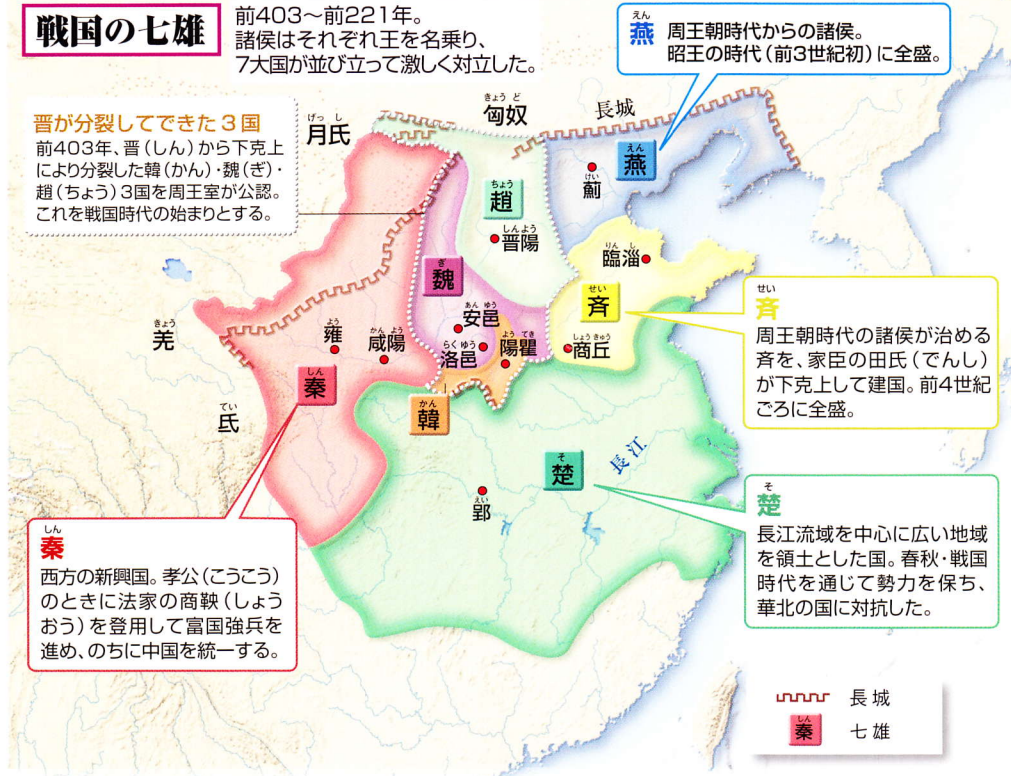
この時代には、鉄製農具や牛耕の登場により農業生産力が向上し、それともなつて青銅貨が鑄造されるなど、商工業も発達した。諸侯は、治水や灌漑、未開地の開墾、大都市の建設を進めた。諸國は支配地の邑を県という行政単位に置きかえ領内支配を強めた。

また、戦乱の世では、支配体制を強固にするための人材と思想が求められ、諸子百家と称される思想家たちが活躍した。

戦国の七雄

前403~前221年。
諸侯はそれぞれ王を名乗り、7大國が並び立って激しく対立した。

晋が分裂してできた3國
前403年、晋(しん)から下克上により分裂した韓(かん)・魏(ぎ)・趙(ちょう)3國を周王室が公認。これを戦国時代の始まりとする。



燕 周王朝時代からの諸侯。昭王の時代(前3世紀初)に全盛。

齊 周王朝時代の諸侯が治める齊を、家臣の田氏(でんし)が下克上して建国。前4世紀ごろに全盛。

楚 長江流域を中心に広い地域を領土とした國。春秋・戦国時代を通じて勢力を保ち、華北の國に対抗した。

秦 西方の新興國。孝公(こうこう)のときに法家の商鞅(しょうおう)を登用して富國強兵を進め、のちに中國を統一する。



周王朝が衰え、有力諸侯が覇者を目ざす春秋時代をへて「戦国の七雄」の時代へ。

戦国の世に生まれた諸子百家
春秋・戦国時代に、各地で活躍した思想家たちを総称して諸子百家という。この時代は中國の社会・経済ともに大きな変動期で、それまでの封建制の崩壊により、新しい思想を生むことになった。

儒家

孔子を祖とする学派。家族に対する孝悌(こうてい)を重んじ、それを他に及ぼす仁を最高の道徳とする。孔子の後、孟子(もうし)、荀子(じゆんし)を輩出、前漢時代には官学となった。

孔子 前551(ごろ)~前479年。魯(ろ)に生まれ、周を理想として政治家を志すが叶わず、諸國放浪のち、弟子の育成に専念。



法家

法に基づき厳格な政治を行い、権力を君主に集中させ富國強兵を図ることを説く学派。商鞅(しょうおう)・韓非(かんひ)らに代表される。

韓非 前233年。法家の思想を大成した。秦で重用されることをねがむ李斯(し)に謀られ、自殺。

墨家

墨子を祖とする学派。手工業従事者や農民を中心とし、博愛主義の兼愛、絶対平和の非攻を唱え、儒家と並ぶ勢力となった。

墨子 前480(ごろ)~前390年(ごろ)。宋の工人の出身とされるが、くわしい経歴は不明。

道家

万物は「道」に従ってあるがままにあるとし、ただ道にのみ従って生きる無為自然の立場に身を置くことを説いた。

老子 道家の祖とされるが、実在を疑問視する説もある。

莊子 前4世紀ごろの思想家。もの是非や善悪を超え、あるがままに生きることを説いた。

Key Word 臥薪嘗胆

春秋時代末期、越王勾踐(こうせん)に父を討たれた呉王夫差(ふさ)は、常に新(まき)の上に寝て復讐の思いを心に刻み続け、ついに父の仇を討つ。敗れた勾踐は室内に胆(きも)をかけてこれを嘗(な)め、その苦さで敗戦の恥辱を思い出してついに夫差を滅ぼした。この故事から、敵を討とうとして苦労、努力すること、目的を達するため苦労を重ねることをいう。